

第 4 章

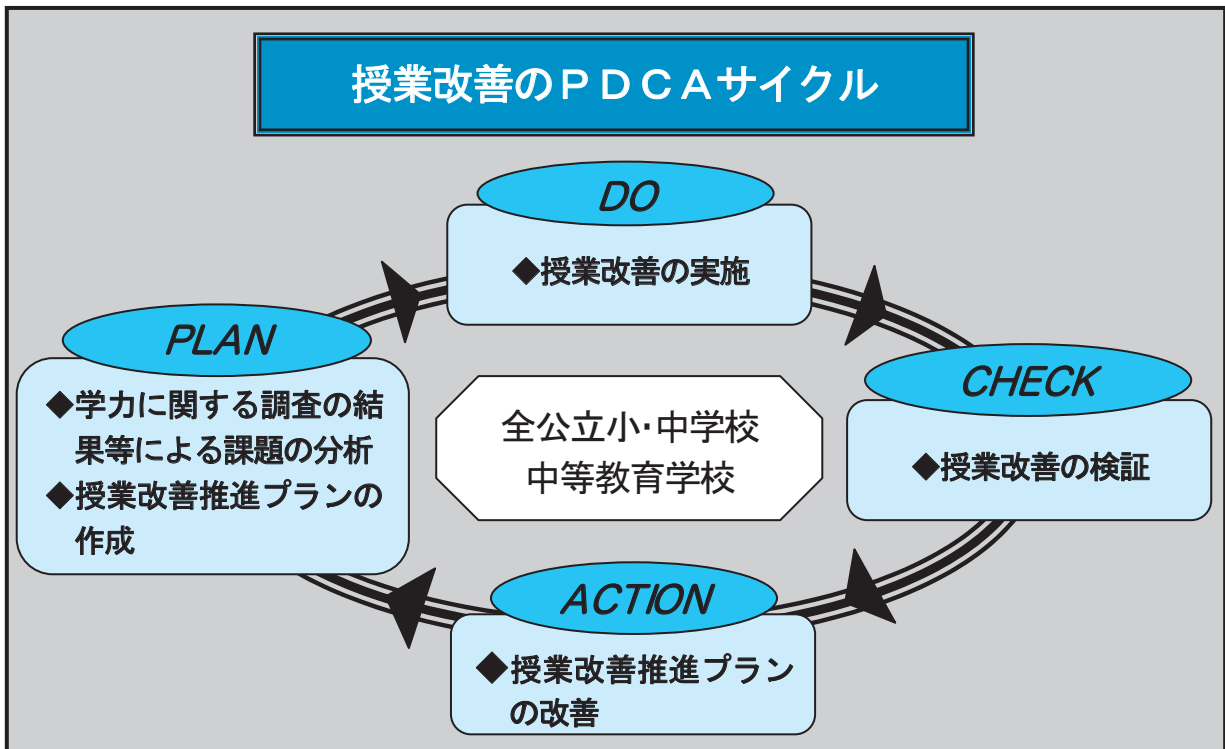
「指導基準」の活用

1 「授業改善推進プラン」への活用

(1) 授業改善のPDCAサイクル

東京都教育委員会は、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果に基づき、「授業改善推進プラン」の作成・実施による授業改善の取組を、小学校では平成17年度から、中学校では平成16年度から推進している。

効果的に授業改善を進めていくためには、次のとおり「授業改善推進プラン」の作成・実施・評価・改善といった授業改善のPDCAサイクルを確立していくことが大切である。



(2) 授業改善のPDCAサイクルにおけるポイントと「指導基準」の活用

児童・生徒の学習のつまづきを防ぐためには、「指導基準」を活用して、「学習の素地として確実に身に付けさせておく必要がある資質・能力」を適切に指導することが重要である。ここでは、授業改善のPDCAサイクルの流れに沿って、各過程におけるポイントとともに「指導基準」の活用例を示す。

学力に関する調査の結果等による課題の分析

P
L
A
N

- 都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」と国の「全国学力・学習状況調査」等の結果及び「指導基準」を活用して、自校の児童・生徒の学習状況や教員の指導上の課題について分析を行う。

ポイント1 都や国の調査結果の分析

- ◆観点ごとの分析（都）、「知識」ごと、「活用」ごとの分析（国）
- ※各調査の関連についての考察 ※各調査の経年での比較・分析

ポイント2 「指導基準」の達成状況の把握・分析 → 「指導基準」の活用

- ◆観点ごとの分析（国語、算数・数学） ※各調査との関連についての考察

ポイント3 教師の指導上の課題の把握・分析

- ◆学習に関する意識調査等の分析
- ◆指導上の課題の把握 → 「指導基準」の「段階的な指導」の活用

P
L
A
N

授業改善推進プランの作成

- 課題の分析を踏まえて、各教科の授業改善策について検討し、全教員の共通理解の基に、組織的に授業改善推進プランを作成する。
- 授業改善推進プランを保護者や地域住民等に公表する。

ポイント1 各教科における授業改善の方向性の明確化

- ◆授業改善の基本的な考え方の明確化 → 「指導基準」の活用

ポイント2 各教科の授業改善策の具体化

- ◆指導の重点化、年間指導計画への位置付け
 - ◆単元レベルでの学習活動の改善策の具体化
 - ◆教材・教具レベルの改善策の具体化
- 「指導基準」の活用

D
O

授業改善の実施

- 授業改善推進プランに基づいて、意図的・計画的に各教科の授業改善を進める。
- 管理職等が授業観察に基づいた指導・助言を行う。

ポイント1 授業改善の日常化

- ◆週ごとの指導計画への授業改善の視点の明記
 - ◆学習指導案への授業改善の視点
 - ◆授業改善推進プランの進捗状況の管理
- 「指導基準」の活用

ポイント2 効果的な指導方法や指導体制等の教員間での共有化

- ◆学年や教科担当の教員相互の授業観察の実施及び効果の検証
- ◆指導方法や教材・教具、資料等の蓄積と共有化 → 「指導基準」の内容に関するものを含んだ指導方法や教材・教具、資料等の共有化

C
H
E
C
K

授業改善の検証

- 授業改善推進プランに基づいた授業改善の取組についての評価を行う。
- 評価の結果について保護者や地域住民等に公表する。

ポイント1 各教科の授業改善の評価と課題の抽出方法

- ◆教員による自己評価・相互評価
- ◆児童・生徒による授業評価
- ◆保護者等による関係者評価 等

ポイント2 総合的な学校評価の実施

- ◆評価の観点（項目）の設定 → 「指導基準」の活用による授業改善を含んだ評価の観点（項目）の設定
- ◆評価方法の設定
- ◆評価時期の設定
- ◆評価の活用の仕方

A
C
T
I
O
N

授業改善推進プランの改善

- 次年度に向けて、授業改善の視点や具体的な方策について見直す。
- 次年度に向けて、授業改善推進プランを修正・改善する。

ポイント1 授業改善推進プランの組織的な検証・改善

- ◆授業改善に関する校内委員会の設置
- ◆校内研修等の活性化 → 「指導基準」を活用した校内研修

ポイント2 次年度の教育課程編成との関連付け

- ◆教育課程編成の基本方針や指導の重点等との関連 → 「指導基準」を踏まえた指導の重点の設定
- ◆各教科の年間指導計画や評価計画との関連 → 「指導基準」を踏まえた指導計画や評価計画の設定

2 「週ごとの指導計画」における活用

児童・生徒の学習のつまづきを防ぐためには、授業の拠り所となる指導計画に「指導基準」の内容を反映させて日々の授業改善を効果的に進めていくことが重要である。指導計画には、各学校が作成した各教科の年間指導計画、各単元・題材の指導計画などがあるが、日々の授業を効果的に進めるためには「週ごとの指導計画」の充実を図ることが不可欠である。

そこで、ここでは「週ごとの指導計画」における「指導基準」の活用例について示す。

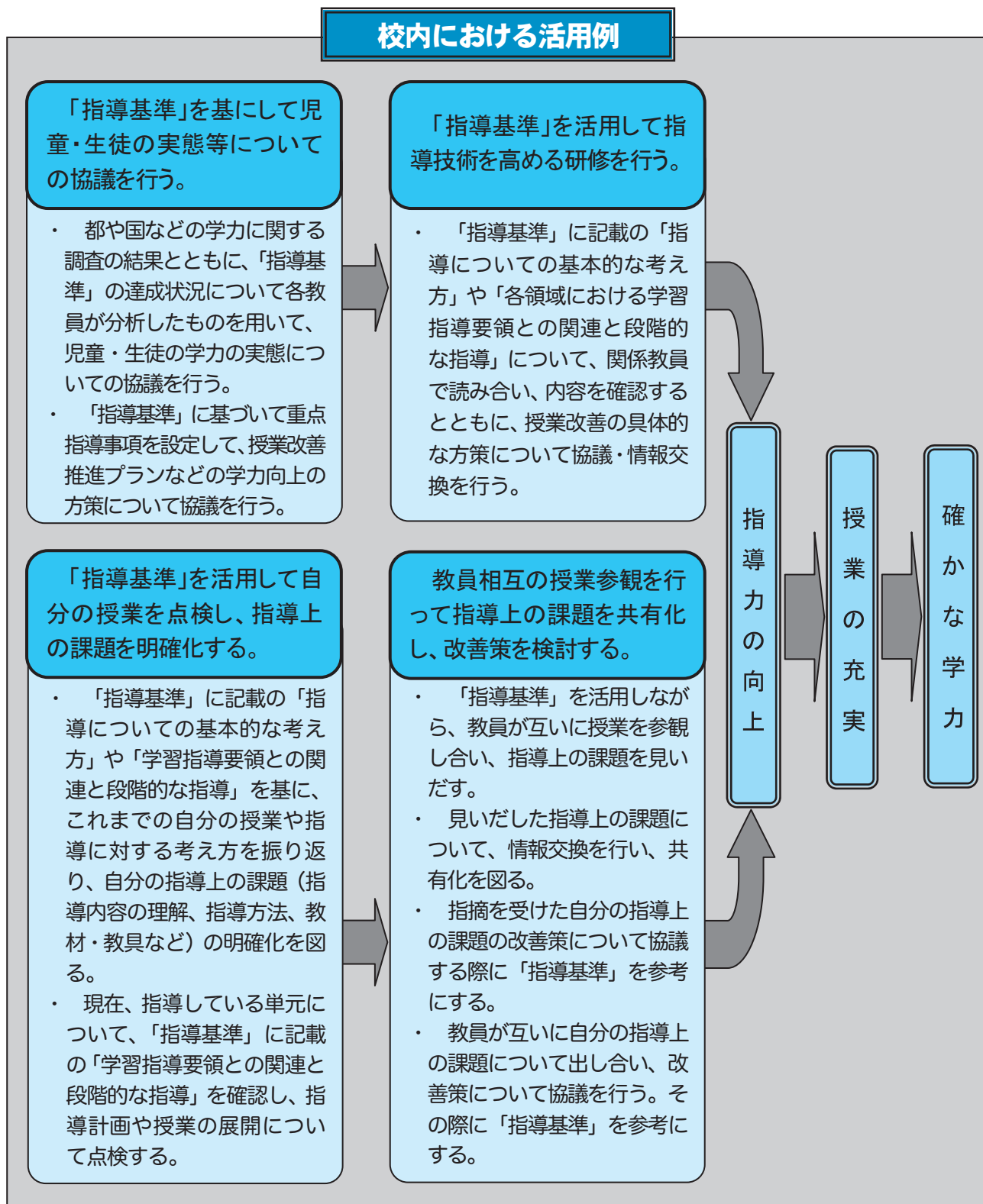
「週ごとの指導計画」は、週末に次週の計画を立てれば「終わり」というものではなく、日々の授業の児童・生徒の学習状況について、評価基準を基に評価し、次の授業の指導に生かしていくことが可能であるため、日々の授業改善には大変有効なものである。したがって、「指導基準」の内容を確実に習得させるためには、「指導基準」を踏まえた「週ごとの指導計画」を作成して指導と評価の一体化を図りながら授業を展開するとともに、授業後には「週ごとの指導計画」に評価の内容を記録しておくことも重要である。

校長		副校長		週ごとの指導計画の例		
● 素		● 新 宿		週間指導計画案 (第24週) 12月 1日～12月 5日 第3学年1組		
月 (1日)		火 (2日)		水 (3日)		
行 務	全校朝会	身体測定		体育朝会		
1	<まとまりに分けて書こう> ・書く必要のある事柄を収集したり選択したりする。 評(ミニ) 疑問に思ったことや、感動したことなどを手がかりにして、伝えたいことを見つけることができる。(書く能力)	「指導基準」の「段階的な指導」の内容で該当するものを記入する。		1	社会	
2	社会 1時間の児童の学習状況から、書く事柄を自分で見つけることが課題となっている児童が多く見受けられました。	2	<10000より大きい数> ・数の相対的な大きさについて理解する。 評(ミニ) 千や万を単位とする見方が異なる。(考え方) 1000は1000が70個集まった数	2	<まとまりに分けて書こう> ・自分の考えが明確に伝わるように、まとまりごとに小見出しをつけて書く。 評(ミニ) いくつかの文をつなげ、段落をつくって書くことができる。(書く能力)	
5	理科 1校時 国語 書く事柄を自分で見つけることが課題となっている児童が多かった。再度、ヒントを示す必要がある。 5校時 理科 電気の回路について、……	6		<2校時 国語> 書く事柄が見つかることができていない児童には、疑問に思ったことや感動したことなどを想起させる助言を与える。		
科	備考欄 1校時 国語 書く事柄を自分で見つけることが課題となっている児童が多かった。再度、ヒントを示す必要がある。 5校時 理科 電気の回路について、……	総合 児童の様子をメモするだけでなく、指導方法も考えることが大切である。		そして、課題となっている児童に対して、どのような手だてを行うか、付箋を活用して次時の指導に修正を加えるようにしました。		

3 校内研修やOJTにおける活用

児童・生徒の学習のつまずきを防ぎ、「確かな学力」をはぐくむためには、教師の指導力を高めることが必要である。そのためには、校内研修やOJTの中で、今回改訂した「指導基準」を活用して、学校が組織的に授業の改善・充実に取り組むことが大切である。

次に示したものは、参考例であり、各学校の実態を踏まえて、「指導基準」の活用を図る。



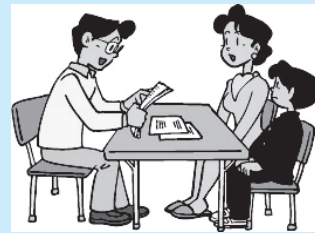
4 家庭・地域の理解と協力

これまで各学校においては、児童・生徒の学力向上に向けて、授業改善推進プランを作成し、指導計画の改善・充実や日々の授業改善に取り組んでいる。しかしながら、都や国などの学力に関する調査の結果からも、児童・生徒が望ましい学習習慣を身に付けることが大変重要であることが明らかになっている。学習習慣については、学校の教育だけで十分に身に付くものではなく、家庭や地域が与える影響も大きい。したがって、各学校では、家庭や地域との連携・協力を図りながら、児童・生徒が主体的に学習しようとする意欲を高めるとともに、しっかりとした学習習慣を身に付けさせて、確かな学力の向上を図っていくことが必要である。

また、今回改訂した「指導基準」についても、その意義や活用方法などについて、家庭や地域に積極的に情報を伝えて、理解を得ることが重要である。例えば、「指導基準」の国語科にある「必要な漢字を調べることができる」や算数科にある「かけ算九九を用いて1位数と1位数のかけ算ができる」などについて十分な定着を図るためには、学校での学習だけではなく、家庭・地域での学習が必要となる。また、家庭・地域と連携していくことによって、児童・生徒の学習の機会が増えるだけではなく、習得した資質・能力を活用する場面も増えていく。このように、「指導基準」の内容についても家庭・地域に理解してもらい協力を得ることで、確かな学力の向上を図ることができると思う。

家庭・地域への説明方法の例

- 保護者会で
- 学校のホームページで
- 東京ミニマム保護者用パンフレット、学校便り、学年便り、学級便りなどの印刷物で
- 学校の掲示板で
- 学校公開日の際に開催する説明会で
- 個人面談や三者面談、家庭訪問などで



家庭・地域に伝えたい内容の例

- 「指導基準」の具体的な内容と学習指導における「指導基準」の生かし方
- 「学習指導要領」及び「指導基準」の定着に向けて、家庭・地域の協力を得ることが重要であること
- 一人一人の児童・生徒は、学習経験、学習方法の適性などに違いがあること
- 確かな学力の向上は、学習習慣などの基本的な生活習慣との関連が高く、学校だけではなく家庭・地域の影響も大きいこと
- 学習の意義や一人一人の児童・生徒に適した学習課題について、家庭で話し合うことが重要であること

家庭・地域に協力をお願いする内容の例

国語科 言葉遣い

相手や場に応じて、丁寧な言葉遣いで話すことができる。

- ★ 家庭・地域でも、場面に応じて周りの大人が言葉遣いについて指導すること

算数科 測定の技能

(長さなどについて測定することができたり) 時刻を読むことができたりする。

- ★ 家庭・地域でも、適宜、児童が時計を読む機会を設定すること